

AVI2008 参加報告

お茶の水女子大学 辻田眸

今回で 9 回目となる AVI2008 が、2008 年 5 月 28 日から 5 月 30 日にかけて、イタリア、ナポリの Centro Congressi Ateneo Federico II で開催された。参加者数は公表されていないが、会場には 120 人ほどが集まっていた。

AVI (Advanced Visual Interfaces) は Visualization や HCI (Human Computer Interaction) を中心に扱う国際会議であり、少人数のシングルセッション会議である。イタリアで隔年開催される点が特徴的である。

今回会議が開催された場所は、目の前にナポリ湾が広がっており、その湾の先にはヴェスーヴィオ火山が望める。近くには、サンタルチア港と卵城があり、非常に絶景な場所であった。

会議では、キーノート 3 件、フルペーパー 32 件、ポスター 42 件、デモ 12 件の発表が行なわれた。フルペーパーについては、117 件の投稿の中から、32 件が採択された (採択率 27%)。

キーノートは INI-GraphicsNet Stiftung の Jose Luis Encarnacao 氏による「Ambient Mobility: Human Environment Interface and Interaction Challenges」、ジョージア工科大学の Irfan Essa 氏による「Computational Photography and Video: Interacting and Creating with Videos and Images」、Fox International の Marco Fanciulli 氏による「Multi-source, inhabited TV」であった。Essa 氏は、最新

の画像や動画の編集処理技術を紹介し、デモを交えながら講演を行った。

以下で口頭発表の一部を簡単に紹介する。

Patrick Baudisch 氏らによる、「Starburst: a Target Expansion Algorithm for Non-Uniform Target Distributions」は密集した小さなターゲットをタブレットやタッチスクリーンで選択する時のインタフェースで、ターゲットからそれぞれ放射状に広がる範囲を選択範囲にすることにより、すべてのターゲットを選びやすくするアルゴリズムを提案している。プレゼンテーションが非常に上手く、聴衆を魅了していた。Roudaut 氏らによる「TapTap and MagStick: Improving One-Handed Target Acquisition on Small Touch-screens」は PDA などの小画面表示デバイスを親指で操作する場合のインタフェースを提案しており、親指でタップした部分を、画面中央に虫めがねのように拡大表示することで、小さなアイコンを選択しやすくするという、非常にシンプルなアイデアである。

Krueger 氏らによる「Image Geo-Mashups: The Example of an Augmented Reality Weather Camera」は Web カメラの映像と地理情報や温度や天気などの情報をマッシュアップし、その場所の雰囲気を表示するような画像を作成するというものである。

日本からは、早稲田大学の森島氏らが「The Creation and Evaluation of Audience-driven Theater Experience」を

発表した。これはアトラクション参加者自身の顔を瞬時に3次元CG化し、参加者自身をその映像中に登場させるシステムを作り、ユーザがストーリーへのくらい没入したかをGSR(Galvanic Skin Response)やEKG(Electrocardiogram)を用いて検証した研究である。

ポスター発表、デモ発表は、3日間に分かれて行われた。コーヒープレイクとランチブレイクの時間に発表が行われ、日本人の発表は2件あった。ランチブレイクの際にはワインも振る舞われた。

筆者も”SyncDecor: Communication Appliances for Virtual Cohabitation”の発表を行った。これは遠隔地に設置されたランプ/ゴミ箱などの日用品の状態を相互に同期させることで、こうした仮想的な同居感覚を提供するシステムである。実際の遠距離恋愛カップルにおける長期実証実験の結果を発表した。

1日目には立食形式のレセプションが行われた。ワインやピザ、カプレーゼなどが振る舞われ、沈む夕日を眺めながら、参加者同士交流を深めた。

2日目のExcursion and Dinnerでは、かつてカルトジオ会修道院であった国立サンマルティーノ美術館に見学に行き、その後近くのレストランで食事となった。高台となっているヴォメロの丘にあったため、眺望も最高であった。食事中はカンツォーネ歌手の方が「オーソレミオ」などナポリ民謡を歌ったり、それに合わせてダンサーの方が踊ったりするパフォーマンスもあった。最後は「フニクリフニクラ」の音楽で、みんなで手を取り輪になって踊り、会場は非常に盛り上がった。

第10回目となるAVI2010は、第1回目の開催地であるイタリアのローマで行われる。電気通信大学の小池英樹教授お勧めの会議に参加してみたいだろうか。



図1 会場の様子



図2 会場から見えるサンタルチア港と卵城



図3 1日目のレセプション会場の様子